

# 【特別講演会】

## 災害時に高度医療をあきらめない！

～災害時に高度医療を実現させる取り組みは、先進国の我がままでも  
贅沢でもない。むしろ、人類に対する責務である！～

前 防衛医科大学校 幹事・元 航空自衛隊 空将

山田 憲彦先生



日時：2019年2月8日（金）16:00～18:00 ※開場 15:30  
場所：東京ミッドタウンホール&カンファレンス（ROOM1～3）

都営大江戸線 六本木駅8番出口より直結

<https://www.tokyo-midtown.com/jp/facilities/hall/>

※事前申込みは不要。主に医療関係者や防災研究者が対象の講演です。

### 【講演の経緯と主旨】

私は一昨年、脳梗塞に罹患し左半身麻痺と構音障害を経験しました。幸い近所の病院で迅速適確な診断・治療を受け、麻痺から完全に回復し、今は元気にやっています。搬送中の救急車内で、「今がもし災害時なら、このまま麻痺は残るだろうなあ。今日は、地震が来ないでほしい！」と、不安にかられて勝手なことを考えたのを良く記憶しています。しばらくして、近年の高度医療進展の結果、災害によって生命・機能予後が著しく低下する病態が、阪神・淡路大震災の頃とは大いに変遷している事に、改めて思いを馳せる様になりました。その様な病態が、現状では必ずしも災害医学の主要な研究対象になっておらず、災害医療体制整備の際にもあまり考慮されていないことに、残念な思いも持つようになりしました。「災害時でも脳卒中や心筋梗塞に適確な対応を期待できる災害医療体制が出来ないか！」と、考えるようになりしました。

この問題に対応するには、平素の高度医療の動向も踏まえ、災害時の健康被害を先行的・包括的に予想し、学際的な検討やイノベーションをオーガナイズする新たな災害医学（研究）のスタイルを確立する必要があると考えています。来る災害医学会の特別シンポジウム（米子市：3/18-20）では、本問題を広く紹介するとともに、AI等の先端科学技術を活用することによって対応の可能性もあることや、本問題への取り組みが地域間医療格差の解消にも活路を提供し得ることを示したいと思っています。

本特別講演会は、SIP戦略的イノベーション創造プログラム「レジリエントな防災・減災機能の強化」（プログラムディレクター：堀宗朗）、課題④「ICTを活用した情報共有システム及び災害対応機関における利活用技術の研究開発」の研究の一環として実施しています。

### 【お問い合わせ先】

摂南大学 理工学部建築学科 建築防災研究室

教授 池内淳子

E-mail: [ikeuchi@arc.setsunan.ac.jp](mailto:ikeuchi@arc.setsunan.ac.jp)



SETSUDAI